

令和4年12月13日（火）廿日市市立廿日市小学校

【夢あふれる学校図書館見学会の様子】



【事後アンケートより】

本見学会において会場校より学んだこと

- ・ 先生方、子供達がしっかり関わり合って、保護者、地域も巻き込んで取り組むことで魅力的な図書室が作れるということや、子供達が図書室に行きたい、本を読みたいと思えるたくさんの工夫が勉強になりました。本がどこにあるか一目でわかるパネルサインの用意や、図書室がくつろぎの場となるような工夫（カーペットなど）、児童に合わせた選書など取り組んでいこうと思います。
- ・ 表紙を見せる、開いて展示する、壁に並べるなど、本を手に取りたくなるような本の配置が参考になりました。くつろいで本を読める環境づくりに努めたいと思います。進級処理のやり方なども参考になりました。
- ・ 学校と保護者全体を巻き込むことで教育活動が豊かになる。そのためには、日頃の連携をしっかりとしていることが必要だと思いました。忙しさから司書の先生と疎遠なため、とりあえず最近の状況、図書率の利用について話をしたいと思います。
- ・ 子供目線で図書館を運営している点が参考になりました。学校図書館の機能を十分活かすために、子供や担任等の声を聞くことや、環境整備等の情報を収集し、担当者に提供することを行っていこうと思います。
- ・ 児童に手に取りやすい配架の工夫が、とても素敵だと感じました。文字だけでなくイラストでどこに何の本が置いてあるかがよくわかり、子どもたちが自分で本を探することができる点もですが、書架の本の置かれた場所の高さや、表紙を見せる並べ方など、参考になる点が多いかと思います。また、本に直接興味をもちづらい児童のために、物語の迷路を掲示したり、居心地のよいソファを設置したりするなどの工夫も見せていただきました。見学会当日は冬でしたが、夏場は青空図書館や図書館前廊下のベンチで本を読むのが心地いいだろうと感じました。図書館の外で本を読める環境を整備していくことも必要だと思います。

- ・ 廿日市小学校さんが学校内外のリソースを活用して、学校図書館の充実、読書活動の推進を進めていることが印象的でした。学校外のリソースの活用としては、市やPTA、高等学校、基金と連携を図ることが有効であることを学びました。連携を図るためには、学校長と推進員がビジョンを描き、取り組むことが大切になると感じました。学校内のリソースの活用としては、読書推進員の取組について学ぶことが多くありました。読書推進員がうまく機能することで、学校図書館の充実、読書活動の推進が図られると感じました。
- ・ 社会科教育、総合的な学習の時間の充実に向けた図書の実践が勉強になりました。社会科教育の充実に向けて、町や県の地図が充実していることが効果的であると感じました。小学校3、4年の教室に掲示したり授業の中で取り扱ったりすることで、さらに効果的な活用となればと思いました。生活科の町探検などでも活用できるとよいと感じました。総合的な学習の時間の充実に向けて、SDGsの資料が充実しているだけでなく、教諭と連携して、必要な図書資料を集めていることが有効であると感じました。
- ・ 子供たちが進んで学校図書館に行き、読書に親しむための環境づくりの工夫について、多くのことを学ばせていただきました。特に、印象に残ったのが、「書架の低さ」です。入室と同時に全体を見渡せることができるため、解放感を感じることができ、図書館特有の圧迫感を感じることがなく、気軽にいつでも行きたい、と子供たちは感じるのではないかと思います。ソファや掲示、おすすめの本の紹介コーナー等の工夫を見ることは多かったです。意図的に書架の高さを設定されているということは大きな学びとなりました。今後、他校の図書館に行った際にも、書架の高さに注目したいと思います。
- ・ 子供目線での図書館というのが、とても印象に残りました。この図書館を学校、地域、大人、子供等、たくさんの方が一緒になって作り上げた図書館であり、だからこそ誰にとっても居心地の良い場所であると感じました。図書館に入った時に統一感があり、違和感やストレスを感じない空間になっていて、その環境を整えられていることが素晴らしいと感じました。きっとすべての図書に必ず誰かの思いが込められているのだと思います。とても勉強になりました。ありがとうございました。

